

※評価に関する参考資料が公表されていないため、従来の形をもとに、令和2年2月現在の情報を加味して作成している。

- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

令和 年 月 日 ( ) 第 校時  
第 学年 組 指導者 ○○ ○○

1 題材 バランスのよい食事

題材名(×)→題材(○)

バランスのよい食事(○)  
バランスのよい食事をしよう(×)

1 単位時間ごとに「評価規準」を作成せず、学校で低・中・高学年別に作成したものをそのまま掲載する。

2 評価規準と目指す児童(生徒)の姿

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、適切な意思決定を行い、適切な仕方を身に付けていく	日常生活における自己の適応に関する諸課題に気づき、解決方法など自分に合ったより	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に
目指す○○の姿	<p>○学習指導要領の目標及び特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、各学校が特別活動共通の評価の観点(____の部分)を定めることとなっている。</p> <p>○学級活動(2)(3)の評価規準〔学校として見定めた評価の観点ごとに、発達の段階に即して設定した評価規準〕を踏まえ、本題材のねらい、内容に即して、十分満足できる活動の状況を、「目指す児童(生徒)」として記述する。</p> <p>○「目指す児童(生徒)の姿」は、観点ごとに記述する。事前、本時、事後の活動全体を通して、各観点をバランスよく設定することが望ましいが、必ずしも本時の中で全ての観点を評価する必要はない。例えば、事前で「思考・判断」「主体的態度」を、本時で「知識・技能」と「思考・判断」を、事後に「表現」と「主体的態度」を中心に評価することも考えられる。</p>		

【参照】「評価規準の作成のための参考資料、評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校・中学校 特別活動 H23.11)」国研  
「新学習指導要領に基づく評価規準設定のための参考資料(小学校 H23.6・中学校 H23.12)」県教委

3 題材について

- 児童(生徒)が自己の課題として真剣にとらえ、目標や方法などを自己決定できるように、学級生活における児童(生徒)の実態から、この題材を取り上げる必要性など、教師の題材観、指導観についてまとめる。
- 必要に応じて、各教科、道徳科・道徳の時間、総合的な学習の時間及び外国語活動等との関連を図った計画的指導や学年段階、発達の段階に即した系統的な指導に関わる配慮事項などについても記述する。
- (1)で児童(生徒)の実態を具体的に把握し、(2)では学級活動の特質、内容を踏まえるとともに、年間指導計画を確認し、(3)では(1)、(2)を受けて、ねらいを達成させるためにどのように指導して、どのような効果を期待しているか明示する。その際、(1)、(2)、(3)がそれぞれ関連し合うように記述する。

(1) 児童(生徒)の実態

- 学級での児童(生徒)の生活の実態や、これまでの学級での取組やその状況を具体的に記述する。
- 題材に関わる実態を調査し、その結果を分析して判断できる実態を記述する。
- 実態調査は、児童(生徒)のよさ、努力点、成長の様子、学習効果、学習を阻害する要因等が判断できるような(実際の指導に生かすことができるような)項目を設定することも考えられる。また、調査日、調査対象、調査人数等を明記する。
- 児童(生徒)の実態調査の分析は、できるだけ個を生かす支援につながるような記述に努める。

(2) 題材設定の理由

- 学習指導要領解説 特別活動編「学級活動」の内容を踏まえて、取り上げる題材の内容、今まで取り組んできたこととの関連、その題材を取り上げる意義、題材と児童(生徒)との関係などについて、題材を設定した理由を具体的に記述する。

(3) 指導観

- 題材のねらいや児童(生徒)の実態を踏まえながら、ねらいを達成するための指導や支援の手立てなどについて、指導の流れに沿って具体的に記述する。
- 題材やねらい、活動に応じて、教材・教具、資料の選択、グループ活動や事前・本時・事後の活動、調べる活動の活用、様々な表現の場づくりなどを具体的に示すような記述に努める。

#### 4 学校課題(研究主題)との関連

○学校課題と関連がある場合は、学校課題(研究主題)に迫るための授業の組立や指導の重点、具体的な手立などを題材レベルでまとめる。

#### 5 人権教育の視点

○題材のねらいや学習内容、指導方法と「育てたい資質・能力等」との関わりを記述する。

#### 6 生かしたい児童(生徒)

○学習指導案参考例のP.33の7(5)、P.37の7(5)参照。

#### 7 他の教育活動との関連

○特に関連のある教育活動や体験活動、日常生活との関連について記述する。

#### 8 活動及び指導と評価の計画

○本時だけでなく、事前、事後の活動も記述する。

※参照：平成23年度芳賞の教育 Q&A集 特別活動

Q4：「学級活動の1単位時間の指導計画(学習指導案)を作成する際に、どのようなことに留意すればよいか。」

Q5：「学級活動(2)に社会的スキルを身に付ける活動を取り入れる際に、どのようなことに留意すればよいか。」

※参照：健康教育指導プログラム集補助資料「保健学習・保健指導の充実に向けて」H23.3 県教委

	日時 【活動形態】	児童(生徒)の活動	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿と評価方法
事前	○/○(○) (朝の会) 【学級全員】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材を知る。</li> <li>・アンケート調査し、結果をまとめる。(児童・生徒が行う場合)</li> <li>・自分の問題について考えておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童(生徒)が左の活動を行う上で、何をどのように工夫したり、配慮したりするかなどを記述する。</li> <li>○課題を明確にするための調査などを実施する場合題材との関連を明確にして記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○評価規準に即して、一連の展開における「目指す児童(生徒)の姿」を示しておく。</li> <li>○例えば本時は、「思考・判断」に重点を置き、事後指導で「表現」の部分に重点を置くなど区別することも考えられる。</li> </ul>
		<p>○「朝や帰りの会など、どの時間で行う予定か」(日時)や「全員の活動か計画委員の活動か」(活動形態)なども記述する。</p> <p>○以下のような「題材の提示」から「振り返り」までの活動内容について記述する。</p>		
		<p>○事前や事後の活動については、活動回数(日時)に応じて区切り線を入れ、それぞれ記述する。</p>		
本時	○/○(○) (朝の会) 【学級全員】	<p>【学級活動(2)(3)】 [集団思考を生かした一人一人の意思決定]</p>	※「(2) 本時の展開」参照	※「(2) 本時の展開」参照
				<p>○太線で囲むなどして、本時の位置付けを明確にする。</p>
事後	○/○(○) (朝の会) 【学級全員】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定期間、決めたことについて努力する。</li> <li>・振り返りをして、さらなる課題をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・○○の児童(生徒)には、○○の助言や励ましを行い、確実に実行できるようにする。</li> <li>・ペアでがんばりを確かめ合いがんばりカードに励ましの言葉を書き合えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【主体的態度】</li> <li>【思考・判断・表現】</li> <li>・自分で決めたことについて粘り強く努力をしている。</li> <li>[観察・努力カード]</li> </ul>

## 9 本時の展開

### (1) 本時のねらい

- 自他との関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どんな意思決定ができるようにしたいのかの指導のねらいを端的に記述する。
- 観点別に、一つないし二つ程度のねらいを記述する。
- 評価規準・本時における目指す児童(生徒)の姿との関連を図り記述する。

### (2) 本時の展開

- 展開を読んで学習活動が把握できるように、できるだけ具体的に記述する。
- 指導上の留意点から教師の指導・支援を記述する。その際、児童(生徒)の学習活動への働きかけやその手立て、助言などを具体的に記述する。
- 特に支援したい児童生徒については、「6 生かしたい児童(生徒)」との整合性を図り、具体的な手立てを通して指導・支援ができるよう記述する。
- 評価は、評価規準に即して、本時の展開における「目指す児童(生徒)の姿」を示しておく。

### ◎学校課題との関連 ◎人権教育上の配慮

段階	児童(生徒)の活動	時間 形態	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿 と評価方法	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材とその課題の実態について知る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の現状、事実などが学級の一人一人に共通する課題であることが理解できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知識・技能】</li> <li>・課題の重要性について理解している。【観察】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフ、アンケート調査や実態調査結果、映像など</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○以下のように、児童(生徒)が左記の学習活動を行う上で、資料や活動の場づくり、グループでの話し合い、ティームティーチング、ゲストティーチャー、簡単な実験、体験談を聞くなどの工夫をする点を記述する。</li> <li>○指導者の立場で記述する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導上の留意点における文章表現の例： 「○する児童(生徒)に対しては、□□を△△することで◇◇を促す。」など、具体的な指導・支援が分かるように記述する。</li> <li>○指導上の留意点における文末表現の例： ～雰囲気をつくる。 ～助言をする。 ～の場を設定する。 ～声かけを行う。 ～を引き出す。 ～意欲を高める。 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○以下のように評価規準に即して、本時の展開における「目指す児童(生徒)の姿」を示しておく。</li> <li>○いくつか例示しておくが、本時のねらいに応じて一つないし二つ程度設定することが望ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入部では、具体的な資料を効果的に提示して、問題を喚起する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入部の学習活動例</li> <li>・課題をつかむ</li> <li>・意識付けの資料を提示する。等</li> <li>○学級の実態や発達の段階に応じた分かりやすい題材、課題、ねらい等を提示する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学習活動」の欄には、予想される児童(生徒)の反応を記述すると分かりやすくなる。</li> </ul>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の原因や様々な問題について知る。</li> <li>・課題の解決方法などについて考える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の原因について理解し、どうしても改善が必要であることが実感できるようにする。</li> <li>・様々な解決方法が出し合えるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【知識・技能】</li> <li>・課題の原因(リスク、仕組み、影響など)について理解している。【観察・学習カード】</li> <li>【思考・判断・表現】</li> <li>・課題の解決方法について考えている。【観察】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的な資料、実物、道具、写真、映像など</li> <li>・図版、絵、写真など</li> <li>・学習カードなど</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○このように観点を枠で囲ったり、下線を入れたりすることも考えられる。これは、目指す児童(生徒)の姿のうち、この活動において特に重点的に評価する部分を示している。(事前・事後指導で評価する部分と区別する場合も同様)</li> </ul>				
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題にあった【努力すべきこと】を決める。</li> <li>・互いに自分の努力することを発表し合う。</li> <li>・教師の説話等</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の課題を確認できるようにし、何をどのように努力したらよいかを考えて、より具体的な意思決定ができるようにする。</li> <li>・互いの頑張りについて、励まし合えるようにする。</li> <li>・事後を見届ける手立てを明確にして、家庭との連携、行事との関連なども踏まえて実践への意欲を高めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【思考・判断・表現】</li> <li>・自分の課題にあった実行可能な取組や方法などを決めている。【観察・意思決定カード】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意思決定カードとがんばりカードなど</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門的ゲストティーチャーや養護教諭、栄養教諭等の講話なども考えられる。</li> </ul>				

## 10 事後指導

○実践に向けて意欲を高めるための指導(活動)、意思決定したことの見直しのための指導(活動)、途中経過などを確認し合うための指導(活動)、ある一定期間実行後に振り返りまとめるための指導(活動)、さらなる活動へ発展させるための指導、意思決定したことの努力の実際、そのことによる成果などが実感できるようにするための指導(活動)などについて記述する。

### 【参照】

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)(リフレット H30.7・指導資料 H30.12)」国研

「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)(リフレット H25.7・指導資料 H26.6)」国研

「学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)」(リフレット H26.6・指導資料 H28.3)国研

[芳賀教育事務所 芳賀の教育 Q&A 集 特別活動 平成 23 年度 Q&A より]

「Q4『学級活動の1単位時間の指導計画(学習指導案)を作成する際に、どのようなことに留意すればよいか。』」

「Q5『学級活動(2)に社会的スキルを身に付ける活動を取り入れる際に、どのようなことに留意すればよいか。』」

「評価規準の作成のための参考資料、評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校・中学校 特別活動 H23.11)」国研

「新学習指導要領に基づく評価規準設定のための参考資料(小学校 H23.6・中学校 H23.12)」県教委